

Ⅷ 農業適正使用緊急対策事業

<平成2年度 ゴルフ場における病害虫・雑草発生状況調査>

1) 調査の目的

ゴルフ場における病害虫及び雑草の発生状況を調査し、安全防除指針を作成するための基礎資料を得る。

2) 調査の方法

(1) 調査場所

- ア. 諫早市小ヶ倉町51 長崎国際ゴルフ倶楽部
- イ. 大村市五ノ郷1334 大村湾カントリー倶楽部
- ウ. 小浜町雲仙548 雲仙ゴルフ場

(2) 調査時期

平成2年4月～12月、月1回

(3) 調査地点

各ゴルフ場において原則として3ホールそれぞれ3地点(グリーン、フェアウェイ、ラフ)について調査した。

(4) 調査項目

- ア. 病害虫及び雑草の種類を判別同定した。
- イ. 主要病害虫及び雑草の発生程度について、各調査地点の一定面積(原則として100㎡)における発生面積を積算して発生面積率を調査した。
- ウ. その他、芝草の管理状況や病害虫・雑草の防除状況等についても聞き取り調査を行った。

3) 調査の結果

(1) 病害について

葉枯病、しずみ症、さび病、ブラウンパッチ及びフェアリーリング等5種の病害が認められた。その他、春はげ症やビシウムブライト等も重要病害虫と考えられたが、本調査では観察できなかった。

今回の調査による主要病害の発生面積率は第1表のとおりで、いずれの病害も極めて小さかった。第1表にあがっていない病害でラージパッチやダラスポット等の発生も考えられたが、当面の重要病害としては発生が確認された5種に春はげ症及びビシウムブライトの2種を加えて合計7種と考えられ、いずれも多発が予想される恐ろしい病害であるか、あるいは難防除病害である。そして、主要病害の発生状況は下記のごとくである。

第1表 主要病害の発生面積率（単位 %）

主要病害名	4月下旬	6月上旬	7月中旬	8月下旬	10月上旬	11月下旬
葉枯病	0	0.01	0.01	0.01	0.01	0
春はげ症	0	0	0	0	0	0
しずみ症	1	1	0	0	0	0
さび病	0	0	0	0	0	0.1
ブラウンパッチ	0	0	0	0.01	0	0
ピシウムブライト	0	0	0	0	0	0
フェアリーリング	0	0	0.1	5	0	0

ア. 葉枯病

グリーンでの発生が目立ったが、発生面積率は0.01%以下であった。

イ. 春はげ症

今回の調査では本病の明瞭な発生を認めることはできなかった。

ウ. しずみ症

4月下旬から6月上旬までグリーンとフェアウェイで発生が認められた。

なお、11月下旬にしずみ症の徴候と思われる症状が観察されたが明らかでなかった。

エ. さび病

本年度は11月下旬にフェアウェイに発生を認めたが面積は少なかった。

オ. フェアリーリング

グリーン上では観察が容易でキノコの発生も散見された。8月下旬にはグリーンにおける発生面積率が最大20%のホールもみられた。

カ. ピシウムブライト（赤焼け病、綿腐病）

今年度は被害が大きかったゴルフ場もあったようであるが、今回の調査では発生を認めなかった。

キ. ブラウンパッチ

8月下旬にごく一部のベントグリーンで周辺部が暗褐色の小さなパッチの発生を認めた。

ク. ラージバッチ

今回の調査では発生を認めなかった。

(2) 害虫について

県内のゴルフ場における主要害虫は、スジキリヨトウ、シバツトガ、コガネムシ類、タマナヤガ、チガヤシロオカイガラムシ及びマツノザイセンチュウ等である。しかし、芝草における当面の主要害虫は、スジキリヨトウ、シバツトガ、コガネムシ類及びタマナヤガの4種と考えてもよいようであった。

これら主要害虫の発生面積率を第2表に示した。また、発生状況については下記のようにであった。

第2表 主要害虫の発生面積率 (単位 %)

主要害虫名	4月下旬	6月上旬	7月中旬	8月下旬	10月上旬	11月下旬
スジキリヨトウ	0	0	0	3	0	0
シバツトガ	0	0	0	0.1	0	0
コガネムシ類	0	0	0	0.01	0	0
タマナヤガ	0	0	0	0	0.01	0

ア. スジキリヨトウ

本年度は本害虫の発生が非常に多かった。

イ. シバツトガ

8月下旬以降の発生が多かった。

ウ. コガネムシ類

8月下旬にウスチャコガネとドウガネブイブイなど観察されたが、コガネムシ類のうちどの様な種が主要害虫であるかは明らかではなかった。

エ. タマナヤガ

10月上旬に発生が認められた。

(3) 雑草について

ゴルフ場における雑草の発生状況をグリーン、フェアウェイ、及びラフについてみると、グリーンは手取り除草が行われていたので雑草はほとんどなく、ただ周辺部にハマスゲ等がわずかに観察される程度であった。フェアウェイ、及びラフにおける主要な雑草の種類は科別にあげると下記のとおりであった。なお、ラフについては細かく観察すると草種がさらに多くなるので省略した。

イネ科雑草ではメヒシバ、スズメノカタビラ、及び多年生のスズメノヒエが主要なものである。その他にエノコログサ、オヒシバ、チカラシバ、カゼグサ等も

みられたが、遍在するかあるいはあまり多くはなかった。

カヤツリグサ科では多年生のハマスゲとヒメクグが圧倒的に多く、難防除雑草であることがうかがわれた。その他にカヤツリグサ等一年生のものがあった。

キク科はオオアレチノギク、ジシバリ、ノゲシ、ヒメジョオン等種類はきわめて多いが、あまり問題になっていない。

マメ科では多年生のシロツメクサ、一年生のヤハズソウが主要なもので、その他に一年生のカラスノエンドウ等があった。

セリ科では多年生のチドメグサがどこでも多いようであった。

オオバコ科の多年生雑草オオバコは一般的ではないがかなり多いところもあった。

その他ナデシコ科のオランダミミナグサ、ハコベ、及びカタバミ科のカタバミ等がかなり多く観察されたが、防除上あまり問題にされていないようであった。

以上のことより、当面の主要雑草としてはメヒシバ、スズメノカタビラ、スズメノヒエ、ハマスゲ、ヒメクグ、チドメグサ、シロツメクサ、ヤハズソウの8種で、難防除雑草と考えられた。

これら主要雑草の発生面積率（被度）について調査した結果を第3表に示した。

第3表 主要雑草の発生面積率（単位 %）

雑草名	4月下旬	6月上旬	7月中旬	8月下旬	10月上旬	11月下旬
メヒシバ	0	0.1	0.1	0.1	0	0
スズメノカタビラ	0.1	0	0	0	0	0
ハマスゲ	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0
ヒメクグ	0.05	0.05	0.05	0.1	0.1	0
チドメグサ	0	0.05	0.05	0.1	0.1	0
シロツメクサ	0.01	0.01	0	0	0	0
ヤハズソウ	0	0.01	0.01	0.1	0	0
オオバコ	0	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
スズメノヒエ	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01